

主な記事

南米の養蚕について	1頁
中田太郎氏の思い出	3頁
サロン	5頁
会員の近況	7頁
新入生名簿	8頁
第5回卒業生助行	9頁
会員動静	10頁

千曲會報

昭和34年5月1日発行

長野県上田市常入

信州大学繊維学部内

編集兼発行人 小山 長 雄

信州大学繊維学部内

発行所 社団法人千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円

南米へ養蚕農村と蚕絲業研究所とを 設置することの構想 (其の1)

碓 氷 茂 (紡3)

1. ブラジルの養蚕業

わたくしは昨年(1956年)の夏から今年の初頭へかけて約半歳に亘る南米移住地(アルゼンチン・パラグアイ・ブラジルの3国)の視察旅行をしてきました。

この旅行でパラグアイやブラジルが日本人の永住の場所として好適地であることを確信することが出来ました。ここに多数の日本人が移住することを極力おすすめる次第です。

さて南米各地で養蚕が行われている国はどこかというブラジルだけです。ブラジル以外では養蚕をやっているところはありません。といつても養蚕が不可能だというわけではなく、養蚕が可能であつても手をつけていないというだけのことです。たとえばパラグアイですが、この国でも養蚕をやれば立派にやる事が出来ます。現にパラグアイのホルメナという日本人移住地の矢沢義雄さんのお宅には立派な桑が出来ていました。この桑は、長野県の下伊那出身の矢沢さんが、ホルメナへ移住するときに日本から持つて行つて植えたものです。実に素晴らしい桑です。この移住地はブラジルの現在の養蚕地帯であるサンパウロ州よりも、もつと気温が低く日本に近い気候ですから、むしろ養蚕には好適地であると思ひました。この矢沢さんは養蚕をやることをパラグアイの移住地で計画したそうですが、1軒や2軒の農家が養蚕をやつても繭の販売が不可能であることからつい養蚕飼育を断念したといつていました。

さてブラジルの養蚕ですが、日本の23倍も面積のあるブラジルの、どの地方でやつているかという、現在ではサンパウロ州1州に限られています。他の地方ではまだ手がつけられません。もつともサンパウロ州1州といつても面積は日本の総面積と同じだけあるのですから大きなものです。

このブラジルのサンパウロ州で誰が養蚕の飼育をやつているかというそれは日本人です。日本人以外で養蚕をやつているものは、現地人でありまして、実に徹々たるもので問題とするに足りません。ですからブラジルの養蚕といつたらそれは日本人がやつているのだと思つてさしつかえないでし

う。この国の繭の生産量は500万貫程度ですから、先づ群馬県1県で生産される繭の量と思つたらいゝでしよう。

ここは亜熱帯地方ですから、日本に比較したらグツト気温が高いため、桑の成育の早いことは驚くばかりです。ですから桑を植えれば、その翌年にはもう完全に蚕の飼育が出来ます。蚕種の掃立回数は最少5回です。6回から7回掃立てるものはざらです。桑園へ肥料をやつているものは、まだ見られません。殆んど全部の養蚕農家は無肥料耕作をやつています。わたくしの友人(小県蚕業学校時代のわたくしの同級生)はこの無肥料耕作を20年も続けていました。もつとも無肥料耕作では地力の減退はまぬがれません。だんだん桑がはげなくなつて来たといつていました。それにしても20年無肥料耕作です。ブラジルの土壌は大した地力を持つていません、ブラジルだけではありません。パラグアイ国の、いま日本人の入植しているブラム地方の土地の肥沃さといつたら大したもの。こうした土地と日本の土地とを比較して見ると、一切が肥料に依存しなければならぬ日本の土地の貧弱さには全くげつそりしてしまいます。どうせ養蚕をやるならここブラジルかパラグアイでやつたらどうだろうと痛切に思つた次第です。

ブラジルの蚕種は、国立の蚕種製造所でも製造していますし、民間会社でも製造しています。また個人の蚕種製造所でも製造していて、現在のブラジルの蚕種の需要に対し供給は充分のようです。

養蚕の飼育は3眠までを稚蚕飼育室で、刈桑、全葉等で飼育し、3眠を起されば桑葉飼育とします。

蚕室は平屋建であつて、幅6メートル、長さは20メートル、30メートルといろいろです。わたくしの友人は幅6メートルで長さ90メートルという大きな蚕室を2棟もつていて、ここで飼育していました。

桑は順々に桑園の端から伐採して行き、年3回の伐採が普通のようなようです。

熟蚕になると、ブラジル独特のマブシ(煙突掃除の時用いる、すすとりのような丸い形をした野草で作つたもの)を

そのまま熟蚕の上へ載せます。すると熟蚕がこのマブシへ取り付きますから、とりついたところを天井へ吊しあげておきます。熟蚕は天井でこのマブシの中へ繭繭します。さて繭掻きですが、繭掻き用の小さな鉄製の熊手（人間の手くらの）で、マブシから繭を掻きとります。日本のように1粒づつ掻きとるような人手のかかることは、ブラジルでは禁物なので労力をはぶくためにこんなことをするので。掻きとられた繭から玉繭・中繭を取り出し、日本製の毛羽取機へかけて毛羽を取ります。そして精繭を製絲家へ販売してやります。

ブラジルには、ただいま日本人経営の製絲工場もありますし、現地人経営の製絲工場もあります。1昨年（1955年）には繭が不足したので、昨年（1956年）は原料繭が不足を告げたところから、製絲家は一勢に買いあさりをしていました。そのため繭価が急騰したといわれます。生繭1貫匁の価格は日本式に計算すると、昨年わたくしがブラジルを訪ねている間には、約1870円ほどでした。この計算で行くと、昨年から今年にかけて、（ブラジルと日本とは気候があべこべですからこちらの冬が向うの真夏で、最も養蚕飼育を盛んにやっていることになりす）相当いい値段であつたわけです。このような繭価は、少くともこの養蚕期中は続くものと推定されてきました。

ブラジルでは製絲工場を2つ見ました。何れも非常に旧式な貧弱な設備で、日本の最近の繰絲機に比較すれば、問題にならぬほど原始的なものでした。ただバストス市にあるブラジル拓植株式会社製の繰絲工場では、増沢製の恵南式自動繰絲機を据えつけて繰絲をやつていましたが、ブラジルでの自動繰絲機は、これが最初のものでした。だからブラジルにおける製絲工場の旧式であることは申すまでもありません。それでもブラジルの製絲工場は黒字だと、わたくしに威張つて話して聞かせるものがありました。

ブラジルで生産された生絲の全部がブラジル国内で消費されています。生絲として海外へ輸出されるようなことはありません。

中にはブラジルでそんなに繭を生産すると、それが日本の生絲を圧迫するのではないかと心配する向きもありますがわたくしの見るところでは、決してブラジルの養蚕業が日本養蚕業の強敵であるなどは考えられません。将来も同様です。むしろ中共の養蚕業の方が日本養蚕業の強敵ではないでしょうか。

ところで今後のブラジルの養蚕業の動向はどうかという点ですが、ブラジルの養蚕業は決して目ざましい発展をするものではなく、先づ特別な方策の構えられない限り、現状維持であるというのが、この国の識者の一致した見解です。ですからこの国の養蚕業が日本の養蚕業を圧迫するだろ

うなどと考えている人は殆んどありません。

では何故ブラジルの養蚕業が伸びないだらうかの点ですがこれには大体次の2つが考えられています。

第1は、ブラジルにいる古い日本人の養蚕農家が養蚕をやめる傾向が顕著であることです。ですからこの古い養蚕農家が養蚕をやめることは、繭の生産を激減させる結果になるわけです。何故古い日本人養蚕農家が、養蚕をやめるかという点、ポツポツ桑園へ施肥しなければならなくなつて来たことが大きな原因のようです。施肥までして養蚕をする必要を感じないというのがこの国の古い養蚕農家の考えです。養蚕をやめてどうするかという点、他の作物の栽培に転換するのです。例えば養鶏にかえるとか、果物にかえるとか、あるいはコーヒー園にかえるとか、あるいは商売を始めるとかいう類です。

第2は、ブラジルの第2世が養蚕飼育を好まないことです。ブラジルでは、すべての人が、必ず日曜には休むことになつています。日曜日に働くということはよくよくのことです。どうしても期間までにやつてしまわねばならぬというふうな土着でない限り、日曜は完全に休みます。商店は勿論、工場でも農場でも休みます。休んではまた働くのです。これはブラジルばかりでなく、わたくしが南米への途中で上陸したシンガポールでも南アフリカでも、あるいは南米のアルゼンチンでもパラグアイでも同様です。そしてこの日曜日には教会へ行くものが多いようです。その日曜がまた楽しい日でもあるわけです。ところが養蚕をやつてると、この日曜日を休むことが出来ません。ですから養蚕をやることは、第2世以下には耐えられない苦痛なのです。なるほど第1世は日曜日を充分楽しむことをしない日本人の風習をよく知っているから、日曜日のない養蚕など、それほど気にかからないのですが、第2世ははるかに現地的になつています。むしろこの習慣が完全にこびりついています。ですから日曜もやれないような養蚕からは解放されたくて仕方がないのです。また同じ農業でも養蚕のような技術を要する仕事は、他の仕事に比しいやらしいのです。これが第2世をして養蚕をいやがらせる第2の原因のようです。

以上のような2つの理由から、ブラジルにおける養蚕業は伸びないといわれているのですが、そのブラジル国から日本に向つて、養蚕移民を招致しています。この点日本人はブラジルの養蚕業の発展に寄与しているわけですが、養蚕移民の渡航の現状では、ブラジルの繭の生産に、それほど大きなプラスとなつていないとは考えられません。（以下次号）

ビルマで客死した中田太郎氏の思い出話

鈴木教吾(糸8)

昨年11月6日深更羽田を発つて、Burma, mandalay の Agriculture College に赴任した中田太郎氏は、去る4月4日腸疾患のため、卒かに不帰の客となつた。Burma の外務省から移牒された電文に

「……全く絶望だ、留守家族に伝達せよ……」

の文句を電話で聞き終つた時は、思わず受話機を取り落しても気がつかず、自室に駆け込んで、室内をぐるぐる歩き廻っていた。「何があつたんですか」と家内に聞かれて、始めて氣を取り直した。

出発の時は、牀の調子が悪くて見送りが出来ず、電話で

「それでは行つて来るよ、たつしやで思う存分働くぞ」

「体に注意してねエ」

と私が言え

「あんたもね、しかしきつと俺より長生きするよ」

がその最後の肉声だつた。

3月19日附の手紙が、26日に着いた。最後のものだ。

「……2週間程前から食事をするとお腹が痛むので、目下パン2切れ、卵1個、コーヒー1杯の生活を續けております。……医者の方にはならぬことに決めております。もしもつと苦しくなつたら、帰国と腹を決めております。それにしても今帰るのは残念です。3日程前には腸閉塞の症状で驚きましたが、これは間違つて居た様です。何れにしても外地の生活では、余程遅延して居らぬと駄目ですね、幸にして明年3月まで居れたら、感謝して日本に帰ります……。」

盲腸炎や腸捻転を手術したためか、腸の癒着がひどく、年中便秘と下痢を繰返して居た。私も瘻手術後の癒着で、同じ様な症状が続いたので、剝離手術を決意し、中田氏に相談したところ、「非常に難しい手術で、その効果は保証できないから、やるな」と忠告してくれた。が、私の決意は固く、後には中田氏も、私の手術後自分もやるよと云うようになった。しかし、それが5時間余の大手術で、それに立合つた中田氏は、急に「俺は手術しない」と云い出して、遂に中止して了つた。勿論私の癒着も完全には剝離しないで、便秘下痢は依然続いているが、手術前とは比較にならぬ程軽快になつた。あの時、中田氏も手術していたらなあ、と惜しまれもする。

自分の名刺の「Dr」のところを指して、「これがあるからビルマくんだりまでつぶしが利くが、鈴木さんは、つぶしが利かんよ」と、笑つて居たが、文字通りビルマで、つぶされてしまつた。

この博士号の問題にも思い出が多い。テーマは早く学生時代から大体決定し、既に幾多の論文を発表してきたが、請求論文は書かない。母校の九州大学では、後輩が続々学位を買つている。当時の学部長奥田博士か、わざわざ綾部まで来られて、

「何とが早く論文を提出する様すすめて下さい。テーマは周知のことだから、場合によつては、他の人に取られる危険もある。どうしても出し渋るなら、「会社の命令」で

出させて下さい」

と申された。その旨伝えると、

「俺のテクニクは、世界で真似の出事者はない。それに安心して呉れ。論文を急げと云われても、それは困る、20代や30そこそこの若い時なら、100年200年の後、その学説が覆されても仕方あるまいが、この年になつて、何代か後の子孫に恥をかかせる様な論文は出したくない」

と云つて背じない。恩師田中義鷹博士は、

「出さないならそれも己むを得ない。これまで発表した論文を、学校の方でまとめて、学位論文にするから」

といわれた。これを中田氏に伝えたところ

「それは堪らん、あの田中先生だから、ほんとにやるかも知れない」

と大分恐れをなし、それからは真剣に論文をまとめ出した。

そしてその論文作成のための助手は、自分のポケットマネーで雇い入れ、自分の家に起居させて、十分の待遇をし、勤務時間中は絶対に自分の研究に手を触れなかつた。薬品や器具も九州大学から取寄せ、会社の費用は、使わなかつた。最後の仕上げさえ、用紙を買つて九大に依頼し、そこでタイプしたのだつた。時々それまでせずとも「など私が云うと、

「俺は絶対に公私混濁はせぬよ」

とつぶやくのだつた。

魚釣が好きだつた。獲物よりは、無心になれる境地が好きだつたらしい。事実時たま、「行こう行こう」と誘われて、お伴をした場合は、ほとんど例外なしに、釣れなかつた。

「今日は嫌な男が来ているから、魚が恐れて出ないんだよ」と、へらへら口をたたいて居たが、全くの「下手の横好き」だつたらしい。月曜日の朝、意気陽々と帰つて来た君に、友人(後の取締役吉和田君)が、「成績はどうだつた」と聞いたら、例の元気で、「これだ」と両手を真直ぐに高く上げた。土曜日の夜から日曜日の夜釣までの成績だ。吉和田君も好きな道として、大いに喜び「それはよかつた。僕も行けばよかつたなあ、黒鯛か、一寸見せろよ、場所はどこ?」と聞いたら、手を下し嫌な素振りで、一目散に逃げて行つた。上げた両手は、親指人差指で丸を作つてみたとは、吉和田君も、後で氣がついた、と大笑いしていた。

私の入院中(瘻手術)は、どんなに忙がしくとも、夜の7時から8時までには、必ず毎晩見舞つてくれた。神経過敏の病人は、遠くから君の足音を聞き取つて、待つていた。

「やあどうだ、元気だねえ」

と大きな声で怒鳴る。それで一時に蓄積した氣分が晴れ晴れする。

「死なないうで呉れ、何としても生きるんだぞ」

とも言い、また時にはしみじみと

「子供さんの教育などは、吾々が引受けるから、安心してね」

と暗に引導を渡されたことも、何回かあつた。

九州大学の佐々木周郁博士は、稀なる親友だつた。佐々木氏からの書信を見て、どうも癒らしい、1日も早く瘻研に来

て徹底的に検診しなさい、と佐々木・中田の両氏に手紙をやつたところ、中田氏から「九大にも医者は居る、癌研まで行く必要は認めない」と、恐しく鼻息の荒い返事を貰つた。がその佐々木博士も今は亡い。わざわざ不自由な足で九州から2度も私の病床を見舞い、実兄の宮崎先生が、主治医の様に毎週2回臥を診て下さつたのに。中田氏のビルマからの手紙には必

ず「佐々木君の分も働かねばなりません」の文句があつた。誰もが駄目だと思つて居た私が、未だに徹々の生を続け、あれほど真心から私のことを心配してくれたこの2人の畏友を失い、枯れ切つた私の心も、いやに引緊るのを覚える。が私には中田氏のように、「佐々木・中田氏の方まで働かねばならない」など云う気遣は、疾うに失われている。

中田太郎博士の御逝去を悼む

蒲 生 俊 興

昨年の秋、東南アジア地方における後進国開発の国是に従つて、いわゆる役務賠償の役割を果たすと共にビルマの蚕糸業開発の目的の下にわが中田博士が10月31日頃マンダレー大学教授として招かれて壯途に就かれてから僅かに半歳とは申せその間異境における兄の活躍振りは如何ばかりであつたろうか。御就任後私宛の御書面によれば同君がマンダレー大学における蚕糸科学の創設と同国蚕糸業の開発のために東奔西走された氏の献身的な努力は筆舌に尽せないものがあつたようである。ある時は未開の奥地に桑園を増設するために寝具まで携帯して出張され、不慣れなビルマ食で栄養を根らねばならなかつたことがしばしばあつた。

このような日夜の御無理が祟つたか、元米胃腸の頑健で無かつた君が遂に恐るべき腸閉塞という病疾に罹られ、百方手を盡されたにもかかわらず終に不帰の客となられたことは誠に誠に痛嘆の至りに堪えません。

思えば中田君は大正9年、本学の前身たる上田蚕糸専門学校養蚕科の第7期生の首席として卒業せられてから暫く母校の物理学教室(原田教授)の助手として勤務せられ、更に当時九州大学に開設された農学部に入學し、田中義賢博士の門弟として、又福岡県蚕業試験場長として、家蚕卵の発生学、ことにマルピギー氏管の発生等に関する極めて有益なる研究を発表せられて、九大において農学博士の学位を獲得せられ

その後郡是製糸会社の聘するところとなつて、同社の研究所長として昭和27年迄、同社における優良蚕品種の育成や原料繭の改良に多大な功績を残され、昭和28年退社されて郷里、安曇蚕糸農業協同組合連合会に奉職せられ、該博な滋養を傾倒され、昨年11月渡邉の北途に就かるまで郷里蚕糸業のために偉大な功績を残されたのである。

今にして思えば、君がビルマ行を決行されなかつたならば今回のような不慮の災厄を招かずに済んだかも知れないのである。如何に悔ゆるともかえらぬことではあるが我國蚕糸学におけるかかる重要な人材を失つたことはまさに遺憾至極である。しかしながら、同君が戦後ビルマの蚕糸業開発に対して科学的計画を樹てられ、着々と実行期に入つておられたことは、今後同国蚕糸業発展史の上に没すべからざる一大功績を刻銘せられることであろうと思う。

君の快活にして恬裕たる、しかも自己を没却した模範的な人格は今更ながら知友一同のひたすら尊敬措く能わざるところであつた。現下のような社会風潮の横溢する時代に、君のごとき稀に見る人格者を50有8才の働盛りで失つたことは誠に惜しみても余りあるところである。ここに同窓の一人として御生前における記憶を辿り、兄の不朽の御功績の一端を讃えて追悼の詞と致します。

蚕糸・繊維化学の最近の研究

蚕の化性と遺伝

生物の形質は遺伝によつて両親から子供に伝えられるが、その間において環境の影響を被むることが極めて著しい場合がある。例えば遺伝的要因を持つ蚕の化性(越年、不越年)を決定するのであるが、このホルモンの分泌をつかさどるのが食道下神経節であり、更に食道下神経節の機能を調節するものが脳である。そして又この脳の機能は、蚕の發育初期の生育環境の支配をうけるので、化性なるものはその代において、遺伝子の作用によつて個々の形質が発現し得られるとは限らない。

従つて化性のような生理的形質は環境の支配を大いに受けて、その遺伝の様相は複雑を極めるものである。しかしそれだけにかような遺伝子発現の中間過程を究明することは、順次遺伝子の本質から生命の追求へと進め得るものである。

化性については、多くの学者によつて研究が重ねられ、その疑問が1つずつ解かれており、現在では化性決定物質まで抽出されようとしている。殊に最近諸星博士は多数の実験例を整理して、蚕の生理作用(特に眠性及び化性)と遺伝子との関係を明瞭に説明した。同氏は本年日本蚕糸学賞を受賞し

た、次にその研究抄録を掲載する。

蚕の生長ならびに發育に関する内分泌の遺伝子支配

諸星 静次郎(郡是研)

蚕の眠性ならびに化性は生長ならびに發育に係した重要な遺伝的形質である。眠性は第6染色体上の主遺伝子($m^8 > +m^8 > m^9$)と伴性変異遺伝子によつて、化性も第6染色体上の主遺伝子($v^1 > +v^1 > v^2$)と伴性変異遺伝子によつて支配される。

眠性主遺伝子はアラタ体の生長ホルモン分泌を支配し、化性主遺伝子は食道下神経節の生長抑制ホルモン分泌を支配する。これらの機能はおそらく伴性変異遺伝子 $L^{m^8} > +L^{m^8} > L^{m^9}$ により分化した脳の働きが神経連鎖を通じて調節される。 L^{m^8} 遺伝子は生長抑制ホルモンの分泌を促進するが L^{m^9} 遺伝子は生長ホルモン分泌を促進する。

生長ならびに生長抑制ホルモンは拮抗的に働らくので稚蚕期(各令前期も)は生長機能が生長抑制機能より勝つた舞台となるが、壯蚕期(各令後期も)はこれに反する。各遺伝子の組合せが眠週期のいろいろの型を作り、初期では眠性の種類を、後期では化性の種類を決定する。(田中)



サ・エ・ラ

神林浩三(紡4)

—第13話— (赤面すること)

人間は自身では何にもないことと思つてしたことが他人からこれを見とずい分おかしいと思われるようなことを平気でやつてる場合がある。

やつてる本人は何か外のことに注意を集中してるから全然そのことに気づかずにかなり非常識なことをやつてるとしたら見てる側からすればずいぶんこつけないだろうと思う。たとへばある1つの会合の場所で銘々に茶葉が配られたといつた場合にはつきり他人様の配分と明らかなものにまでも手を伸したにもかゝらず当人は全く無意識で居つたとしたら、その他人様は失礼な奴と内心軽べつと怒りを感じずに違いないが、ざりとて事を荒立てるのもと思つて知らん振りして居られればその場はそれで向にもなかつた如くに済んで了うだろうが人間の意識感情は面白いもので、その張本人が家へ帰つてその日1日の事共を振り返つて見て初めて大変失礼なことをやつて了つたと気がついたとしたら独り居たたまれぬ位に赤面するに違いないけれども、全くも

う遅きに失してるといふものです。お互いこんなことのないよう常に戒心し度いものと思つた次第であります、どうも終始「恨しみのない言葉」になつて了つて申し訳ございません。

—第14話— (Dead lock)

この言葉はよく使われ、新聞雑誌にも見かけます。日本語では差当り「暗礁に乗り上げる」に相当するかと思つてますが所謂インテリにはdead lockの方がよくその感じが現わせると云う人もあります。ところで英語の dead-lock 日本語の「暗礁」との間には何か関連があるものと思つてつしやる紳士が案外多い、それは lock と rock の発音上の錯覚かも知れません。ご承知の通り暗礁は rock で lock が錠の意味ですから従つて「dead-lock に乗り上げる」と云えない理でございませう。もつとも dead rock という新語を作れば別ですが。なおこの dead lock には二重錠、行詰り、停頓、堰といった意味の外に留置場とか花柳病院の如き意味もありますが何れも look される事には違いないからでございませう。

—第15話— (役人根性)

いわゆる役人根性と云つて我々民間人にはどうしても理解出来ないような不合理、不経済的なことが極面もなく行われていることは昔も今も余り変りが無いらしい。

一時公僕精神とか何とか云われたことがあつたがいつの間にか忘れ去られたかの感がある。例えば県庁の連中は全部が全部とはいわれないが、その運営は全部県費すなわち県民の税金で賄われている事を

果して自覚してるのかと云い度くなるような事が平気で行われてることは一般県民は余り知る機会がないようだ。

極めて最近の例として昨年末の事、知事が部課長を集めて当時どうごうたる非難を浴びた「料理屋委員会」事件に関連して出張(市内を含めて)はなるべく自粛するよう訓示を垂れたその当日新聞記者が県庁内各部課を廻つて見たら当の知事を初め大多数の部課長が揃つて出張不在、残つてたのは1部長と数名の課長のみだつた由、以下推して知るべきか。

—第16話— (役人根性) 続き

ある役所では毎年予算編成期ともなれば市外の温泉地での1泊位の宴会が跡を絶たないそうである。それぞれの部課の会計係とその部課の長が主催してその役所の予算決定権を持つ係員数名を招待して盛大な宴会又はマージャン競技会を催して、いわゆるご気遣をとり、なるべく多く予算を貰うべくこれ努めるのだそうである、これが各課競争になるから堪らない。その招かれた係員に対して各自に数千円もする記念品まで進呈するに至るわけだ、問題はこれ等の費用に全部県費が転用されてるとしたら吾々県民はこれをどう考えたなら納得出来るかマア考えて見て下さい。

予算分取り競争は独り地方に限らず中央官庁でも毎年盛んな様子だが矢張り大同小異にこんな工合に取運ばれているのかどうか知りませんが国民の1人として少くとも「何やら割り切れない」感じだけは拭い去ることが出来ないと思われませんか？

蚕糸・繊維化学最近の研究

尿素樹脂加工繊維の樹脂量標準試験法

By J. Tankard

J. Text. Inst. P. 1029 (1956)

本法は British Standard Institution を始め権威ある各種協会によつて認められたものであつて操作簡単かつ高精度であることを特長とする。本法の適用される繊維は綿、麻、ビスコース、銅安人絹およびこれらと酢酸繊維あるいは羊毛との混紡品の尿素樹脂加工布であるが、メラミン樹脂加工布には適用されない。

方法は0.1N塩酸で60°C, 1時間処理しその減量を秤量によつて求めればよい。なお次の諸法を並行して行えば極めて参考になる。

- a) 0.1N HCl, 60°C, 1時間
- b) 0.2N HCl, 65°C, 15分
- c) 1%酒石酸, 20分煮沸
- d) 酢酸塩緩衝液 (PH 4.6), 95~97°C, 1時間
- e) ケルダール法によつて窒素を定量する (たゞし汗液中の)

エポキシ樹脂による綿の防シワ加工

C. W. Schroeder G. F. E. Condo

Text. Res. J. 27, 135 (1957)

エポキシ樹脂とくに新型の樹脂 (Vinyl cyclo hexane dioxide, diglycidyl ether of 2, 2-bis (p-hydroxy- phenyl) propane, tri-glycidyl ester of phosphoric acid等) は綿の防シワ加工に最適であることが認められた。この加工は永続性があり、塩素に対して不活性であるため繰返しの漂白およびアイロンによつて脆化しない。白のまま賞用される。これらの特長はエポキシ含有化合物が水酸基同士間に架橋結合を生じさらにエポキシ基特有の化学的性質によることを述べている。加工に当つては触媒がもつとも大きな役割を演じfluoborateのZn, Al, およびMgの塩が有効である。樹脂量と防シワ性、強伸度、破裂強度との関係も検討してあり、かなり改良されている他の樹脂加工布との性質比較も試みてあり幾多の優良な性質が見出される (清水)

久保藤一さんの死を悼む

久保さんが急逝された、唯々痛惜の情に堪えない、実をいうと久保さんの身体には常に多少の不安が纏っていたようであつた。また久保さんも充分これを自覚されていて、不断の注意を怠らなかつたようでもある。しかし近年になつてその懸念も大に薄らぎ身体に多少の自信もつき一というよりも病気を完全に忘れ去る事が出来て、これからの晩年を大いに楽しく生きようとしていられた其の時、突如としてこの計であるからなんとも御同情に堪えない次第である。久保さんは過去においてかなり重い病気を一度された事があつた、昭和23年頃かと記憶する、遂にはつきりした病名は与えられなかつたがあるいは一つの敗血症であつたかも知れない、当時ペニシリン等の高貴な抗生薬が高価ばかりでなく容易に手に入り難かつた時であつたが、御身内の手厚い御看護でこの悪条件を克服して辛く生命を取りとめたというところであつた。森病院長など8〜9分通りは頭を傾けられたものであつた、この病気が癒えて姑く経つてから何気なく血圧を計つて見られたが240という驚くべき高血圧であつたから、再び久保さんの斗病生活が始まり、石の如き堅い克己心をもつて高血圧症と4つに取組んだものである。医師の指命に基づいた食生活は厳格を極めたもので、間食等は絶対にしないし、甘味を排し肉類を避けよくもこうきびしくまもり続けたものであると思う程の克己であつた、此の辺にも久保さんのパングチュアルな性格が現われて面白く感じられた。薬等も当時効果あると思うものは全部服薬されて見たことと思う、こんな生活を4〜5年も続けると倦み疲れて如何にでもなれと一度は投げけるものであるが久保さんくらい辛抱強く血圧のルールを守つた人はまづ少いと思う。それでも30年頃極めて軽度の高血圧症状に倒れたことがあつた、2〜3日にして平静に復され何の後進症も残されていない、これは血圧急高の折に生ずる一時的の現象で溢血などと大袈裟に見るべきものでない久保さんはいふ、しかし今にして思うとこれも一つの前駆症と見做すべきものであつたかも知れない、久保さんの血圧は平常220から240の間ぐらいにあつた、久保さんの血圧哲学からいうと成程これは高いかも知れないが、もうこの辺で固定して、ほとんど上下が無いから高いなりに安定した本態性血圧であるというつまり比較的心配の少いという裏言葉である。

久保さんは口癖に1日生きれば1日得をしたと思うと言われていた。これにはいつも血圧に対する不安のかけらがくつついていたからだと思ふ。近年は余り血圧のことも語らず、老後の仕事の計画などについて明るい希望を持たれその日その日を楽しんで居られたかに見えた。

3月4日夕方、自宅において風呂の火を焚きつゝ、脳溢血に倒れ、直に居間に移されて、以来15日までの10日間、御家族によつて萬全の看護を尽されたが遂に久保さんの霊をこの世に取りもどすことは出来なかつた、真に痛恨の至りである。

久保さんは昨年4月、自ら進んで待命退職の線に加わつて休職となり本年1月休職万期で退職されたのである、久保さんが亡くなるまでたつた1ヶ月の開きしかなかつたが久保さんの長い労苦を憫らい、偉大なる勲功を償する意味においてせめて在職中に久保さんの霊を弔りたかつたとは久保さんを

知る何人もみな等しく感じた事であろう。これに加え、千曲会としては昨年の總會の決議に基づき、表彰状と金一封を送る準備をすゝめ、正に理事会によつて表彰式を挙行しようとしていた直前、久保さんの計を見たわけであるから返さず返さずも残念である。

久保さんは昭和7年本校に就職されて以来退職まで満25年間全く千曲会一筋に生きて来た人である。学校における身分は時々変つたけれども「千曲会館の久保さん」という相言葉には少しも変りはなかつた、入校当初、乱雑不整備であつた千曲会の庶務を、巧緻な頭脳と几帳面な性格でこれを系統だてて正規の一連の帳簿を完備したし、会計においてもまたしかりで、とに角細かい事務は久保さんの御手のものであつた。またこの間に同窓生の人事の事務も執行された、15〜6回の卒業生から10年間くらいの人事事務はほとんど久保さんの手を煩わした。

千曲会が社団法人になる時も多忙の間にこの煩瑣な事務を一手に引き受けて全部これを処理した。久保さんは事務のベテランであつた、その他千曲会に残された功績は沢山ある。しかし限に見えない功績も見のがす事は出来ない、久保さんのあの性格自体が無慈悲で非常に世話好きな親切な人であつたから、学生といわず、同窓生といわず、また校内職員といわず、みな相談相手に久保さんの周囲に集つて来た。結婚問題から借屋のいざこざ、知名の士への紹介、金銭関係に至るまで久保さんの御智恵を借用したものである。とくに金銭関係について久保さんの好意を煩わした人は数多い、これについて久保さんはいかなる形にしても決して返礼を受けたことがない、無慈悲というもおろかの話である、こういう事もその1つの理由であるかも知れないが、そればかりでなく、あのたくまなひととなり人に人を引きつける魅力があつて「会館の久保さん」というユニークな立場を築き上げていた、出勤退庁の時間など更道としてはいさゝか型破りであつた。かつて、校内で数名の定員減のお違つしがあつた時、他の部局に所属しながら千曲会館で千曲会の仕事をしている久保さんの身分について論議されたことがあつたが校内職員の千曲会の仕事に理解のあつた事も勿論であるが久保さんのひととなりも存つて大いに力となつて旧来のまゝということに収まつた、これらもかくれたる久保さんの功績である。久保さんの退職後は、校費をもつてその補充がでぎずに千曲会の大きな負担として残つている。

久保さんはあれで——といつては失礼だが、あのお年でなかなかおしやれな半面もあつた、いつもあの薄い頭髪をちやんと分けて、学校で艶を綺麗にあたつて鞆を肩にかけて校門を颯爽と出かけて行く、勿論紳士としての身だしなみであるが御老人であるという点で何となくユーモラスに感じられてほほえましき情景であつた。今やこの老紳士はどの辺りを歩いていらるゝことであろうか、呼べば笑つてこれに答える程の親近感がなお眼底に残つているが、もう地上で再会することが出来なくなつた。まことに淋しき極みである、謹しんで御冥福を祈り駄文を弄した次第である。久羅佐和生

会員の近況

母校だより

繭検定所勤務の千曲会員と懇談会 東京支会

各都道府県の繭検定所には現在数多くの千曲会員の諸氏が活躍されているので東京支会では去る3月14日、所長会議に上京された諸氏と懇親会を持った。

蚕糸会館地下室に林先生を迎えて、繭検定所からは15名東京支会より鈴木支会長始め有志18名が出席し、支会長挨拶の後林先生より学術会議の模様を伺う、更に長野の小山所長より過日逝去された南沢清氏の繭検定につくされた功績、熱心な同窓活動等についての紹介があり、哀悼の意を表して全員起立し氏の冥福を祈って黙禱を捧げた。

懇談会に移ってから順次自己紹介をしながら各地の情報交換、大先輩の経験談用談、同級生との交歓等々、時間を有効に使って夜の更ける迄賑やかに語り合い今後も機会ある毎に催すことを約束して散会した。

当日の繭検定所側から出席された方々の氏名は次の通りであった。

- 宮城 東家明秀(糸19) 福島 藤森明美(糸20)
- 東京 早乙女徳藏(糸17) 志摩哲夫(糸31)
- 福井 白井要範(糸12) 長野 小山俊吾(糸10)
- 平沢和司男(糸24) 和歌山 神崎碩夫(糸17)
- 山口 中島熊保(糸19) 桑木正義(糸23)
- 徳島 宇根山哲夫(糸17) 愛媛 中村孟夫(糸38)
- 福岡 福島鋼治郎(糸12) 長崎 坂口静次(糸28)
- 大分 宮崎進(糸17)

栗山士行君の外遊

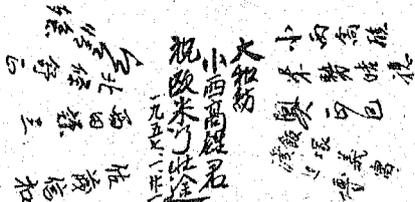
繊維化学科第5回、三菱レイヨン株式会社勤務の栗山士行君はアセテートレイヨン研究のため去る3月6日羽田を立つてアメリカ、セラニーズ会社を主として外遊され、今後発展性を期待される。アセテートの研究をされることは同慶の至りである。栗山君は三菱レイヨン株式会社に入社以来、大竹工場、岐阜工場、名古屋工場の勤務を経て本社に戻り、専ら染色加工方面の企業研究をされ、今回アセテート工場の新設と共に、その染色加工部を担当される為、会社の大なる期待の中にアメリカに行かれた、数ヶ月後に帰朝される予定と聞き、帰られてからの活躍を楽しみに待つ次第である。(繊維化学科会田記)

佐藤政宏君の帰朝

昭和31年10月、羊毛工業視察の為ヨーロッパ、アメリカ、濠洲方面に出発された丸新フェルト紡織株式会社副社長佐藤政宏君(化3回)は去る3月10日、長途の旅行から多くの収穫を得られて無事帰国された。旅行中の彼の貴重なる収穫については何れ詳細なる報告を本紙に書いて頂くように依頼する考である。しかし佐藤君の如き線の太い人物が今回の外遊により更に広い視野に立つて羊毛工業界に活躍されることは想像するだけでも愉快でならない。青年実業家としての彼の活躍を期待してやまぬ。(繊維化学科会田記)

化1小西高雄君渡欧歓送会

大和紡本社勤務の小西君が西欧諸国の繊維業界調査のため2月27日羽田を出発した。同君の健康と活躍を祈念して壮行会を1月21日在阪の同級生が集って行った。OHの方は全く不得意の同君のために専らエツセンというので午後5時より大阪東区本町2丁目の会浜楼で中華料理の卓を囲んだ。羽島先生に教つた



ドイツ語は卒業と同時に返上したらしく今回の渡欧に当つてはアーベーツェーより再勉強したとか、又彼の地の事情も十分検討してあり、水が飲めずその代りにOHの入った飲料ばかり出されるので閉口するとか勿体ないことを云つていた。その外にetcの方の事情もぬけ目なく…今頃は仕事を忘れてアルプスで顔面制動中だろう。でも学生時代のフアイトとねばりて案外大きいカモをさげて帰るのではないかと首を長くして待つている。彼の地での活躍と健康を祈つて筆をおく
同君のスケージュールは大体次の如し
3月 ハンブルグ、ベルリン、アムステルダム、プラツセル
4月 コペンハーゲン、ストックホルム、マンチエスター、ロンドン、パリーミラノ、ローマ、チュリツヒ、プラツセル
5月 ジュネーブ、リヨン
5月15日 羽田 (化1 西田謙三記)

32年度入学式挙行さる

去る4月12日母校では32年度入学宣誓式が佐藤学長、伊藤学部長、井上学生後援会長、田崎厚生補導部長等の出席を得て厳粛に行われた。入学許可者は本科122名、別科40名であるが先にも述べた通り県外者が激増して6割に達し、その出身地も北は北海道から南は鹿児島に至る32都道府県に及んでいる。従つて入寮希望者は非常に多いが現在寄宿舎1棟は腐朽して使用に耐えないのであぶれた者多くこれら学生の下宿先斜旋で入学式当日は勿論母校当局は大わらわりの態であつた尚入学許可者を現役浪人別に見ると浪人が逐年その数を増し、昨年は両者相半ばであつた者が本年は67.2%が浪人でいよいよ試験地獄はむべなるかなを思わせる。(中島記)

内地留学

繊維化学科黒岩茂陸助教授は私費留学生として5月より1ヶ年間東京工大金丸研究室において界面活性剤の流動複屈折および繊維の表面電導度に関し、また同科遠藤恒久講師(紡20)は東北大学理学部野副研究室において染料合成に関し4月より1ヶ年間それぞれ研究されることになつた。

本日誌

- 3月24日 群馬千曲会總會開催 林顧問出席
- 4月13日 神奈川千曲会總會開催、本部より荻原理事出席
- 本会事務臨時書記別府茂君はこの度埼玉製糸へ就職決定し後任として暫時下条初子氏にお手伝いを願うことになつた。
- 中田太郎氏ビルマにおいて死亡
- 第2回理事会決定事項について去る3月16日の理事会において決定を見た主な事項は次の通りである。
 1. 会費納入率向上について
活動緩慢な支会は会費納入率も悪いので、特に不活潑の支会(北佐久、岐阜、鳥取、愛媛等)へは本部から直接出向くなり何等かの強化策を強力に推進するとともに納入状況等の参考資料を作成送付し会費納入についての注意を喚起すること
 2. 会報広告料について
会員の榮転や結婚等の慶事あるいは住所移動等の名刺広告料は100—200円程度とし、各支会の会報の係と緊密な連絡を保ち大いに募集すること。
 3. 本会東京事務所について
東京都台東区原町3の7層木田ビルを借用設定で一応進むことになつた。(中島記)

昭和32年度信州大学纖維学部入学者

養蚕学科

池浦 雅博 愛知刈谷高
 市川 忠史 岐阜恵那高
 浮野 義博 愛知半田高
 奥田 守孝 岐阜加納高
 柏木 卓夫 岩村田高
 上蒲 生光 大坂北野高
 北見 俊男 上田染谷ヶ丘高
 小森 三郎 新潟佐渡高
 塩沢 俊彦 群馬高崎高
 柴田 朋昭 飯田高松高
 島田 利明 岐阜恵那高
 鈴木 正明 長野北高
 関川 利治 静岡磐田南高
 田村 恒明 飯田高松高
 塚田 光朗 岡山津山高
 筒井 邦男 長野北高
 戸塚 正彦 飯田高松高
 永井 勝雄 野沢北高
 西野 上 静岡浜松北高
 野田 啓典 大阪生野高
 御子柴 啓賢 新潟明訓高
 宮川 興昭 松本県ヶ丘高
 吉池 昭夫 岐阜掛斐高
 川池 昭夫 岐阜多治見高
 上田松尾高

製糸学科

相田 隆正 大阪清水谷高
 安藤 越雄 福島会津高
 井上 茂典 長野北高
 伊原 久美 大阪夕陽高
 今村 里美 飯田高松高
 浦野 哲司 愛知明和高
 加茂 義和 愛知明和高
 池藤 大 東京九段高
 佐藤 大 北海道芦別高
 鈴木 隆一 上田松尾高
 園田 浩隆 愛知瑞陵高
 梨本 尾高 茨城水戸第一高
 西尾 高 福岡嘉穂高
 正松 尾高 東京立川高
 松三 井坂 東京江北高
 宮村 石治 愛知旭丘高
 山本 武正 愛知刈谷高
 吉渡 正俊 新潟新登田高
 大坂勝山高
 埼玉不動岡高
 諏訪清陵高
 長野北高
 須坂西高
 神奈川小田原高
 川本 武正 兵庫明石高
 田本 武正 愛知東海高
 吉渡 正俊 群馬中之條高
 新潟明訓高

紡織学科

飯田 浩一 岩手盛岡第一高
 井原 妙子 長野西高
 江竜 耕次 富山高
 大岡 池村 上田松尾高
 小野 沢夫 山口大津高
 皆瀬 貞夫 岩村田高
 北沢 昭夫 上田松尾高
 久保 昭義 上田松尾高
 黒河 信義 北海道小樽緑陵高
 笹岡 信孝 愛媛丹原高
 杉藤 岑夫 奈良敬傍高
 高橋 清仲 愛知菊里高
 知野 光俊 飯山北高
 辻田 勝宜 長野北高
 徳所 周介 福井敦賀高
 槽中 原一介 福岡小倉高
 野呂 喜久男 松本深志高
 藤原 孝行 岡山高梁高
 藤原 幸男 三重四日市高
 北条 正介 福岡鞍手高
 三刀谷 毅美 新潟直江津高
 村野 田博 岡山工業高
 柳井 本泰 岡山朝日高
 脇肋 泰明 山梨甲府第一高
 出松本深志高
 親孝 大分別府鶴見丘高
 田千 北海道具頭東高
 井出 雅昭 上田松尾高
 太田 雅昭 京都綾部高
 小川 祥興 上田松尾高
 尾沼 安雄 上田松尾高
 川上 博美 上田松尾高
 桑田 昌助 千葉木更津第一高
 酒井 啓治 屋代東高
 塩沢 修三 上田松尾高
 高橋 康弘 愛媛新居浜東高
 竹内 皓司 松本深志高
 竹前 皓司 屋代東高
 田中 秀雄 北海道函館東高
 土屋 功一 上田松尾高
 堤 進治 大分臼杵高
 寺島 健治 松本深志高
 戸崎 近雄 鳥取米子西高
 中川 雄之介 飯田高松高
 中根 一元 上田松尾高
 林 勝巳 松本深志高

繊維化学科

出松本深志高
 親孝 大分別府鶴見丘高
 田千 北海道具頭東高
 井出 雅昭 上田松尾高
 太田 雅昭 京都綾部高
 小川 祥興 上田松尾高
 尾沼 安雄 上田松尾高
 川上 博美 上田松尾高
 桑田 昌助 千葉木更津第一高
 酒井 啓治 屋代東高
 塩沢 修三 上田松尾高
 高橋 康弘 愛媛新居浜東高
 竹内 皓司 松本深志高
 竹前 皓司 屋代東高
 田中 秀雄 北海道函館東高
 土屋 功一 上田松尾高
 堤 進治 大分臼杵高
 寺島 健治 松本深志高
 戸崎 近雄 鳥取米子西高
 中川 雄之介 飯田高松高
 中根 一元 上田松尾高
 林 勝巳 松本深志高

馬場

川久 諭 熊本九州学院高
 福島 孝史 鹿兒島加治木高
 福間 孝史 大町南高
 谷隆 史 鳥取米子東高
 柳正 男 上田松尾高
 山越 一男 野沢北高
 山岸 文明 福井丹生高
 山本 利彦 上田松尾高
 山本 実彦 松本深志高
 善積 寛明 上田松尾高
 若林 吾郎 兵庫姫路南高
 大町南高

蚕糸別科養蚕課程

井沢 新一 小泉蚕業高
 薄葉 孝雄 福島福島農蚕高
 金井 石根 小泉蚕業高
 岸田 米二郎 屋代東高
 小門 勝美 鹿兒島伊佐農林高
 木暮 利夫 群馬利根農林高
 小近 藤彦 藤科高
 酒井 邦登 屋代東高
 清水 義治 飯山北高
 高見 敏也 藤科高
 長坂 眞夫 坂城高
 中西 島勇 小泉蚕業高
 西野 亨夫 下伊那農業高
 原平 和夫 小泉蚕業高
 藤松 山正 群馬佐波農業高
 松尾 清史 岐阜中津高
 満木 林治 小泉蚕業高
 山浦 清三 小泉蚕業高
 山岸 光郎 山梨石和高
 渡辺 光男 秋田本荘高

蚕糸別科製糸課程

赤塚 さと子 中条高
 池田 郁二 屋代東高
 荻原 弘子 望月高
 小林 倫子 岩村田高
 近藤 明子 中条高
 佐々木 葉子 岩村田高
 清水 恒見 小泉蚕業高
 高山 良江 長野西高
 中谷 光江 小泉東部高
 保母 巖 岐阜武儀高
 宮尾 ちかの 長野西高
 入巻 洋介 福島梁川高
 依田 敦子 岩村田高
 綿田 正子 中条高
 渡辺 智 岩村田高

信州大学纖維学部第5回卒業生

養蚕学科

上原 昂 小県郡東部町田中
 小木曾 章 天童社原料部(下伊那郡那那町)
 片井 弘 雄 愛知県蚕業試験場岡崎支場(愛知県岡崎
 市岩津町)
 金子 俊彦 亀山製糸前橋乾繭所(前橋市宗甫分)
 神田 春茂 小県郡長村横尾
 蒲生 卓磨 九州大学農学部大学院学生
 久保田 重良 農林省蚕業試験場生理部(東京都杉並区
 高円寺)
 栗林 茂治 農林省蚕業試験場前橋支場(前橋市岩神
 町)
 小出 幸長 信州大学纖維学部専攻科学生
 小林 陽陽 南信社蚕種製造所(岡谷市長地)
 小林 啓次 信州大学纖維学部専攻科学生
 小齊 幸雄 愛知県蚕業試験場(愛知県江南市木賀)
 酒井 明良 埼玉県蚕業技術指導所熊谷支所(埼玉県
 熊谷市)
 佐藤 亮三 片倉工業重崎製造所(山梨県重崎町)
 清水 隆三 信州大学纖維学部専攻科学生
 塩沢 英人 蚕糸科学研究所(東京都北多摩郡小平町
 小川)
 鈴木 昭 茨城県上浦市下田町2,704
 竹井 健 上田蚕種協同組合(上田市常入)
 竹内 一誠 原松代製糸所(埴科郡松代町)
 茅野 弘 鐘紡蚕業試験所(愛知県春日井市上田栄
 町)
 土屋 競 信州大学纖維学部専攻科学生
 降旗 孝夫 上田蚕種協同組合(上田市常入)
 堀内 亨 水沢女子高等学校(岩手県水沢市)
 町田 幹芳 亀山製糸前橋乾繭所(前橋市宗甫分)
 宮下 明治 信州大学纖維学部欠木研究室
 宮下 民雄 須藤製糸株式会社原料課(茨城県古河市
 古河)
 宮崎 久雄 蚕種協同組合千曲社(埴科郡埴生町)
 山辺 好徳 片倉工業普及団蚕種製造所(松本市蚕玉
 町)
 吉川 藤男

蚕糸別科(養蚕コース)

赤尾 邦敏 亀山製糸前橋乾繭場(前橋市宗甫分40)
 石原 善策 埼玉製糸KK
 尾崎 進 日本シルクKK松山工場(埼玉県東松山
 市大字松山3,572)
 春日 新一 大和組製糸所(埼玉県児玉郡上里村)
 北条 三雄 埼玉製糸本庄工場(埼玉県本庄市)
 近藤 久人 埼玉製糸KK
 久保田 啓資 自営(下伊那郡上郷村字別府)
 小井戸 章夫 片倉蚕業研究所(松本市蚕玉町)
 小平 正己 信大繊維学部聴講生(上田市常入500)
 小林 昭栄 昭栄製糸大磯蚕種製造所(神奈川県大磯
 町)
 齊藤 幸治 自営(南安曇郡堀金村島川5,724)
 塩倉 邦昭 鐘紡新町工場(群馬県藤岡市新町)
 名倉 登 埼玉製糸KK
 服部 礼治郎 亀山製糸前橋乾繭場(前橋市宗甫分40)
 福沢 千代子 片倉蚕業研究所(松本市蚕玉町)
 矢野 吉彦 埼玉製糸KK本庄工場(埼玉県本庄市)
 山浦 菊夫 片倉蚕業研究所(松本市蚕玉町)
 山田 秀夫 埼玉製糸KK
 山本 忠夫 日本シルク松山工場(埼玉県東松山市大
 字松山)

製糸学科

渡部 貫三 片倉工業石原製糸所(熊谷市石原2,232)
 青木 久夫 九興製糸KK(岡谷市)
 荒井 徹 石橋生糸KK沼津工場(沼津市高島町6
 丁目)
 池田 秀一 池田製糸所(新潟県十日町市昭和町2)
 石井 一郎 日東タイヤKK相模工場(神奈川県高座
 郡寒川町)
 伊藤 俊文 城南製作所(上田市大門町)(住)上田
 市北天神町大草商店貸付
 岡本 克巳 自宅
 金井 清人 山吉組製糸KK(岡谷市小井川)
 金光 昭明 中野備前KK(八王子市大和田町)
 窪田 聖夫 マルヤス産業KK(岡谷市成田町)
 小井土 基博 大和三光製作所(東京都中央区京橋3の2
 片倉ビル内)
 小林 益夫 八洲光学下諏訪工場(諏訪郡下諏訪町桜
 町)
 小塚 陽一 上田市本町
 小松 恒彌 東京靴下KK(東京新宿区神楽坂5の27)
 曾我 嬰三 加茂蚕糸販農協連(愛知県挙母市大字挙
 母夏焼4)
 中沢 昭治 信濃絹紡KK(小県郡九子町)
 中沢 一 (埴科郡坂城町)
 中村 富隆 農林省神戸生糸検査所(神戸市葦合区浜
 辺通り8丁目)
 野沢 潤子 信州大学纖維学部製糸学研究室
 原田 伸 北佐久郡御代田町
 宮坂 武雄 小県郡東部町海野
 宮下 敏雄 吉野組製糸所(群馬県渋川市)
 室岡 和夫 合資会社吉田館(岡谷市小口区)
 若林 敬二 小県郡滋野村
 小松 昭威 日信工業KK(上田市踏入)
 押金 平八郎 小県郡九子町長瀬

蚕糸別科(製糸コース)

飯田 まさ子 原製糸所(埴科郡松代町)
 池田 勝 池田製糸所(新潟県十日町市)
 岩瀬 喜己恵 宮西鑄造所(岐阜県一ノ宮市宮西通り)
 片桐 和子 須藤製糸KK本部工場(茨城県古河市)
 金子 瑾子 吉野組製糸所(群馬県渋川市)
 小市 和代 千久水社(北佐久郡小諸市)
 神宮 好子 日本シルク松山工場(埼玉県東松山市)
 高橋 晃正 農林省蚕業試験場(東京都杉並区高円寺
 3丁目)
 谷 高樹 亀山製糸KK本社(三重県亀山市)
 柳沢 啓子 笠原製糸須賀川工場(福島県須賀川市)
 若林 時子 須藤製糸本部工場(茨城県古河市)
 和田 裕子 山吉組製糸KK(岡谷市小井川)

紡織学科

井出 敬三 五藤毛織KK(一ノ宮市四ツ峯町4)
 池内 才八郎 愛知紡績KK(名古屋市中区南園町2の4)
 池田 義信 敷島紡績KK(大阪市東区平野町3の34敷
 島紡作業寮)
 市川 義規 帝國産業KK(大阪府岸和田市南町)
 笹井 実 中部旭紡績KK(名古屋市中千種区猪高町)
 大月 長男 福田紡績KK(豊橋市牟呂町中西8の8)
 風間 昭生 東邦毛織KK(一ノ宮市印田通り2の11)
 金井 雄金 厚木編織KK(神奈川県高座郡海老名町)
 木内 寛 大府紡績KK(愛知県知多郡大府町)

倉科和夫	大阪羊毛工業KK (大阪市西淀川区野里町)	玉井潤	東京靴下KK (神奈川県横須賀市本町同社)
小林梅雄	同上	滝沢孝正	静岡加工紙工業KK (清水市青川515 社寮)
佐藤光義	和光交易KK (東京都千代田区九ノ内2の1)	東城篤義	三菱レイヨンKK大竹工場
清水一寛	中部旭紡績KK (名古屋市千種区猪高町)	内藤茂美	日東電気工業KK (大阪府茨木市下穂積401同社寮内)
篠原大	倉毛紡績KK (兵庫県西宮名次町3 青雲荘)	西沢正純	大同染工KK (京都市南区豊田町唐橋同社寮内)
下平弘之	同上	花岡靖夫	信大繊維学部専攻科学生
高島啓造	蝶理KK (大阪市住吉区浜口中3丁目3の1)	橋詰厚夫	帝国人絹KK (広島県三原市門一町帝人寄宿)
滝沢啓造	蝶理KK (大阪市住吉区浜口中3丁目3の1)	林貞男	高分子化学工業KK (大阪府寝屋川市仁和寺同社寮内)
武井武文	都筑紡績KK (愛知県知多郡阿久北町植大)	林部良彦	東洋紡績KK (大阪府守口市外島町自啓寮)
正村銃三	大和紡績KK (出雲市今市町1900)	半田伊助	室谷染色工業KK (京都市中京区壬生松原同社内)
玉井和水	渡玉毛織KK (尾西市三条)	馬場進吉	近代化学研究所(東京都豊島区千早町2の4)
常盤真三郎	織維製品検査所(金沢市長町川岸)	翠川健彦	近江絹糸KK (加古川市尾上町同社鳴門寮)
中島孝夫	大生織布有限会社(愛知県知多郡東浦町)	村田鈴子	蝶理KK (大阪府泉南郡東島取村自然田芝野様方)
中村寅男	東洋レイヨンKK (大津市石山北大路宮の内)	森雅広	長瀬産業KK (兵庫県伊丹市千僧高町帝國産業報和寮)
宮坂啓象	信大繊維学部専攻科学生	矢ヶ崎千代子	蝶理KK (大阪市東区本町5の23樺山KK内)
古川元彦	日本化学繊維協会 (東京都中央区日本橋室町3の1)	山浦源太郎	横浜精染KK (横浜市神奈川区三ツ沢南町124同社寮内)
村山日出男	興津紡績KK (大阪府泉大津市虫取60)	山上洋介	鐘淵紡績KK 長浜工場 (滋賀県長浜市)
和田実	藤東興業KK (尾西市起町三条)	柳沢悌三	厚木編織KK (神奈川県高座郡海老名町同社寮)
専攻科		四茂野裕	渡玉毛織KK (愛知県尾西市三条同社寮)
小宮山 貧一	酒伊織維KK (酒井市花堂町)	横沢 襄	長瀬産業KK (東京都中央区日本橋小舟町2の3)
渡辺 信之	防衛庁調達本部(東京都千代田区鶯ヶ関)	小林要吾	東洋化学KK (鎌倉市台町79)
溝口 信之	安藤毛織KK (一ノ宮市8丁通り)	専攻科	
青柳 正人	長瀬産業KK (名古屋市研屋町1の2同社寮内)	片桐 康孝	興国人絹パルプKK (熊本県八代市)
石堂直記	室谷染色工業KK (京都市中京区壬生松原同社内)	佐土 孝	通産省特許庁 (千代田区三年町1 (住) 中野区打越町6信濃寮)
上山 厚	東海製油KK (名古屋市昭和区五軒家町20坂倉方)		
笠原昭重	明成商会KK (大阪市東区平野町3の33)		
久保正人	興国人絹KK富山工場		
後藤 勲	新光産業KK (東京都神田鍛冶町2の4)		
菅原 力	長瀬産業KK (大阪市住吉区帝塚山西3の55)		

會 員 動 靜

頁数	氏 名	卒業回数	新 住 所
25	木内 秀人	化 5	片倉工業KK千厩製糸所(岩手県東磐井郡千厩町字脇谷6)
25	千葉 豊蔵	蚕 29	岩手県立水沢農業高校(水沢市)江利郡江利町岩谷堂町浦24の6
26	今井 又蔵	蚕 1	死亡
28	丸田 巖	化 1	花玉石鹼和歌山工場研究課(和歌山市湊薬種畑1334)和歌山市西浜1450
35	荒木 守雄	学糸 3	西多摩中学校(東京都西多摩郡) (住) 東京都三鷹市牟礼1854金子正方
36	高橋 英	糸 21	須藤製糸本部工場(古河市古河)
37	細川 整	糸 38	全上 松原工場(古河市)
37	松井 靈二	糸 18	鐘紡結城工場(茨城県結城市)
37	中村 幸枝	糸別 3	須藤製糸KK(古河市)
38	江田 重雄	化 4	療養中(宇都宮市雀宮町608 雀宮病院南5) 栃木県鹿沼市麻草町1516
48	新田 佳男	糸 36	富士精密工業KK三鷹分工場製糸機課(東京都三鷹市上連雀990)
50	山浦 洋子	糸別 3	死亡
53	小林たきせ	教 5	片倉工業大宮製糸所(大宮市)
53	小林忠十郎	紡 10	埼玉製糸KK秋平工場(埼玉県児玉郡秋平村秋平)
53	坂口 健男	学蚕 1	全上 全上
54	武田 一好	蚕 19	大里村役場(埼玉県大里郡大里村吉所敷) 大里郡大里村中恩田
55	土屋 寿子	教 8	結婚退社(片倉大宮)
55	塚田 修一	蚕 38	埼玉県蚕業試験場秩父支場(秩父市大宮682)
60	有本 実枝	別 4	実江は実枝の誤り
61	岩根 恒徳	糸 13	自宅(東京都世田谷区松原町3の975引田アパート 岩根徳光方)
63	大窪 文夫	糸別 3	広瀬無線電気KK(東京都神田区仲町)
64	奥野 芳男	糸 29	富士精密工業KK販売部(東京都中央区京橋1の1プリジストンビル8階)

64	小沢周一郎	蚕 10	(自宅) 東京都武蔵野市吉祥寺548	153	坂西 広	系33前	坂西内科神経科医院(白管) 長野市北石堂町184 電2187 日赤病院西側
67	小泉 辰雄	糸 24	勤務先従前通り(住) 東京都目黒区上目黒7丁目駒沢住宅R, S, 14号	155	永野 裕貞	糸 32	長野県庁人事課(長野市南県町(住) 長野市権堂町10丁目川端中学校(長野市) 鐘紡松本工場(松本市島内区) 貞爾とあるは卓爾の誤り 自宅 松本市大字和山3484 ビルマに出張中
67	合田 信一	糸 11	(自宅) 浦和市高砂町5の17	156	松本 仁	学紡 3	自宅 東筑摩郡山形村
68	佐野 正美	糸 34	昭栄製糸KK 工務課(千代田区神田駿河台3の1の2)	159	岡田 薫	学系 3	安曇蚕糸協同組合連合会(南安曇郡豊科町)
69	塩田 健介	糸 11	神栄生糸KK 東京支店(中央区銀座西3丁目1番地並木ビル3階)	160	窪田 潤	糸 12	長水地方事務所蚕糸課長(長野市)
71	高橋 威	蚕 35	勤務先従前通り(住) 東京都北多摩郡国分寺町和倉新田997 都営住宅国分寺第10の64	161	竹井 章	蚕 37	自宅 下伊那郡松尾村清水天童社阿南工場(下伊那郡下桑村2571)
73	富岡 恬	糸別 1	東京都台東区松葉町57小林幸司方	166	池田 俊郎	蚕 21	恵南協同蚕糸退社
74	内藤 次郎	糸 14	神栄生糸東京支店(中央区銀座西3丁目1番地並木ビル3階)	174	石塚浪之助	糸 7	敬雄は敏雄の誤り 全国農業会扶養製糸工場(大山市上野南)
74	西沢 精一	学蚕 1	三井生命保険相互会社(千代田区大手町2の8興農会館内)	175	清水 悦雄	学系 1	勤務先前通り(所在地) 一ノ宮市大和町
76	広幡 哲夫	化 4	科学技術庁企画調整局(千代田区霞ヶ関2の2)	177	小畑 稔	糸 32	豊橋市向山西町134
76	藤森 敏雄	紡 24	新三菱重工業KK 岩塚工場機械研究課(名古屋市中区岩塚町) 名古屋市中央区横川町門内方	187	河台 敏雄	糸 31	愛知県渥美蚕業技術指導所(渥美郡田原町)
78	三宅 悦郎	学化 1	勤務先前通り(住) 東京都大田区調布千鳥町649の8	189	近藤 義信	紡 12	田中を若林と改姓
81	山本岩三郎	蚕 7	勤務先前通り(住) 東京都港区麻布町51(電) 赤坂(48) 6296	190	白井 四良	糸 21	鐘紡四日市工場(四日市市日永新開1775)
83	小山田道男	糸 10	自営(住) 富士吉田市宮下町	190	鈴木 泰一	蚕 13	亀山製糸KK 本工場(亀山市天神町3442の8)
84	宮原 英俊	糸 23	郡是飯野工場(山梨県中巨摩郡白根町)	191	若林 卓男	蚕 36	農林省統計調査事務所(津市広明町112)(住) 三重県一志郡久居町木造
84	本山 正美	糸 9	片倉工業KK 諏崎工場(諏崎市)	198	小泉 郁雄	紡 専	是石は是金の誤り 勤務先前通り(住) 宇治市宇治橋通り2丁目権勝次郎方
85	内山 鶴雄	糸 13	自宅 横浜市神奈川区粟田谷76	200	野本 昭三	糸 37	鐘紡KK製糸部(大阪市都島区友淵町123)
85	宇野 保夫	学系 4	横浜精染株式会社(横浜市神奈川区松本町80)(住) 横浜市神奈川区三ツ沢南町南將軍荘	200	山下 昇	蚕 30	勤務先前通り(住) 寝尾川市大字奏753豊野住宅34号)
86	金子 敬造	蚕 32	川崎市登戸新町408	206	小畑 忠富	糸 26	良茂を貞哉に改める
87	栗山 良員	紡 21	石川島重工業株式会社技術研究部(横浜市) 横浜市南区上大岡町字中野町522	206	江口 晴雄	化 1	日本紡績検査協会(大阪市東区内久宝寺町1の25)
88	笹川 嘉隆	糸 27	自宅 横浜市南区永田町171	208	堅谷 貞哉	蚕 37	大阪レントゲン技術養成所
89	立木 悦郎	糸 32	勤務先前通り(住) 横須賀市東浦賀大ヶ谷能沢方	210	花戻 清一	紡 11	合資会社御影製園所(神戸市東灘区御影町浜弓場207)
89	富永 暉	糸 26	光照撥糸KK(相模原市大島2168)	212	渡辺 恒夫	糸別 3	本吉は吉本の誤り
90	松野 正	糸 27	日本飛行機株式会社本社製造部工務課(横浜市金沢区富岡町3175)	213	稲富 貞夫	蚕 専	郡是塚口工場染工課長(兵庫県尼ヶ崎市字塩幸320)
96	北野 三郎	紡 14	日清紡富山工場(富山市堀15)	218	吉本 吉郎	化 6	神乘電気KK(京都府綾部市青野)
97	見田 秀夫	蚕 30	富山県庁農政課(富山市)(住) 前通り	219	岩崎 俊男	化 2	片倉工業松江製糸所(松江市東朝日町151)
103	萩原 万夫	学系 1	小幡市内96	220	千葉 達人	糸 18	帯人三原工場製造部第2課紡糸係(三原市宮神町帯人筆影寮)
119	宮下文四郎	糸 20	日信工業KK(上田市踏入)(住) 上田市西脇	222	渡辺 養重	糸33後	自宅 呉市仁方塩田524の25
138	柳沢 文子	糸別 4	自宅 小県郡滋野村片羽	223	吉田 力	糸 24	山口大学教授(防府市三田尻東車塚1499大村方)
139	太田 宏	糸 31	死亡	227	池内 鼎	学化 4	
150	玉井 勇	学化 3	下高井農林高校(下高井郡木島平村)	227	谷 行雄	化 5	
150	岡田 量雄	蚕 25	長野市三輪城東町846	229	門平潤一郎	蚕 9	
151	坂本 勝三	蚕 23	下高井農林高等学校(下高井郡木島平村)				
152	大屋 正尚	化 9	自宅 長野市西長野腰山				

会費領収 (4月10日現在)

昭和32年度会費納入者 (34)
 秋山 山崎 二勝 信豊 友顯 誠一 多津 千実 民安 不二 正泰
 山崎 原下 木井 田岡 沢木 井原 井田 土田
 昭和32, 33, 34年度会費納入者
 副崎 助 増 藤 原 哲 藤 沢 川 山 野 田 井 山 川 崎 藤 島 下 野 沢 原 村 藤 本 沢 川 本 木 本 久 本 井 武 森 祐 会 岡 松 猪 猪 腰 藥 師 寺

石 井 貞 司 (// 38)
 関 口 雄 (紡 28)
 平 林 保 直 (紡 26)
 浅 井 碩 平 (紡 28)
 神 崎 保 孝 夫 (糸 17)
 大 久 藤 一 雄 (糸 29)
 齋 藤 根 謙 美 (糸 6)
 岩 目 崎 武 武 (糸 11)
 沼 田 健 治 (糸 23)
 神 林 雄 作 (糸 29)
 大 森 雄 作 (糸 32)
 土 屋 清 一 (糸 15)
 山 屋 孝 夫 (糸 11)
 小 山 信 一 郎 (糸 15)
 土 屋 信 一 郎 (糸 35)
 小 黒 信 一 郎 (糸 16)
 岡 市 宮 大 熊 康 (糸 20)
 大 雅 隆 彦 (糸 13)
 藤 原 木 隆 彦 (糸 3)
 山 岸 保 隆 彦 (糸 26)
 佐 藤 大 吉 (糸 27)
 室 大 吉 (糸 29)
 中 尾 昌 子 (糸 2)
 安 室 岡 川 尾 子 (糸 25)
 塩 中 高 宮 好 上 内 田 保 田 哲 二 郎 (糸 2)
 谷 川 田 下 土 原 田 久 保 田 哲 二 郎 (糸 2)

未納会費納入者

金1300円
 和田 正 (糸 32)
 遠山 了 (糸 28)
 川保 元 (糸 15)
 飯島 雅 (糸 22)
 山本 辰五郎 (糸 1)
 浅平 保 (糸 12)
 室井 林 茂 (糸 26)
 金1200円
 崎正 夫 (糸 28)
 金1100円
 羽寿 雄 (// 22)
 金1000円
 関口 俊 (紡 28)
 秋山 二 (糸 34)
 小腰 正 (糸 23)
 深井 安 (糸 4)
 藥師 宏 (糸 28)
 寺 宏 (糸 22)
 安 田 恵 子 (旧 数)

金800円
 近藤 伸 一 (紡 29)
 大原 不 二 (糸 35)
 中宮 彰 信 (糸 26)
 下 信 治 (農 5)
 金600円
 市川 敏 三 (糸 18)
 西宮 沢 一 (糸 21)
 宮会 本 一 (糸 16)
 氏神 家 次 (糸 25)
 黒柄 崎 夫 (糸 14)
 田 沢 一 郎 (糸 17)
 沢 昌 一 (糸 8)
 英 子 (教 5)
 山 木 渡 (農 3)
 曾 山 高 (糸 4)
 吉 川 新 一 郎 (糸 17)
 金400円
 関 民 雄 (糸 大 2)
 中 沢 夫 (紡 大 1)
 谷 川 遺 (糸 12)
 山 崎 成 巳 亮 (糸 20)
 祐 岡 亮 晴 作 (糸 25)
 大 室 文 定 (糸 33)
 内 藤 文 定 (糸 2)
 野 正 夫 (糸 18)
 井 中 友 弥 (糸 27)
 青 木 友 弥 (糸 11)
 金200円
 安 藤 志 子 (糸 大 2)
 昌 青 努 造 (紡 大 3)
 吉 田 突 千 秋 (糸 21)
 田 所 信 幸 直 (化 1)
 宮 湯 下 原 直 次 (糸 30)
 近 藤 藤 本 次 熙 (糸 大 3)
 椋 横 本 信 次 (紡 12)
 宮 橋 武 平 (糸 13)
 猪 目 本 井 原 (糸 21)
 吉 湯 沢 川 英 (糸 大 3)
 宮 崎 本 井 原 顯 良 (糸 6)
 武 猪 目 武 仙 (糸 35)
 目 吉 湯 沢 仙 次 (糸 22)
 湯 宮 益 次 郎 (農 4)
 崎 元 (糸 27)
 元 (化 5)

岡 本 一 男 (蚕 37)
 岡 沼 田 武 治 (// 23)
 土 屋 健 勲 (紡 29)
 小 黒 信 一 郎 (糸 15)
 宮 間 信 一 郎 (糸 35)
 小 黒 宮 間 信 一 郎 (糸 16)
 原 島 卷 代 (蚕 32)
 柳 谷 川 源 一 郎 (教 5)
 中 健 一 郎 (糸 20)
 正 一 郎 (糸 24)
 正 一 郎 (糸 1)
 正 一 郎 (糸 15)

退官記念資金
受領報告

(4月10日現在)

佐藤利一先生分
 金1000円
 氏家 忠 次 (糸 14)
 金500円
 飯 島 璋 起 (飯 島 製 作 所)
 小 野 修 二 (糸 7)
 金300円
 田 柳 口 亮 (// 17)
 柳 沢 新 一 (// 31)
 佐藤春太郎先生分
 金500円
 飯 島 璋 起 (飯 島 製 作 所)
 小 野 修 二 (糸 7)
 金300円
 田 柳 口 亮 (糸 17)
 柳 沢 新 一 (// 31)
 窪田潤先生分
 金1000円
 井 野 正 夫 (糸 18)
 金500円
 金子 新一郎 (糸 17)
 金400円
 米 山 達 雄 (// 33)
 金200円
 松 崎 滋 (// 29)
 菅 原 吉 隆 (// 33)
 関 井 民 貞 次 (糸 大 2)
 石 井 貞 次 (糸 38)
 特別活動資金
 受領報告
 (4月10日現在)
 金300円
 大 塚 耕 介 (糸 34)
 米 山 達 雄 (// 33)

編 集 後 記

○光陰矢のごとし。今年の入学者は昭和12,3年生れであるから支那事変の始つた頃出現した者たちである。実社会で活躍しておられる中堅の諸兄にとっては異様な感にうたれることでしょう。平和な時代が訪れた証拠に日本各地から多数入学され寮はまさに狭き門である。
 ○今月は哀悼号に似た感があるがお許しを乞う。見たこと思つたことをどしどし編集部へお送り下さい。(清水記)
 編集理事 田口亮平 編集総務 小山長雄 部員 石川博 中原武・西山久雄・美斎津利正・柳沢幸雄・清水周